

杭州市近郊農村における観光開発と地域変容

The Tourism Development and Regional Change in the Suburban Village of Hangzhou City

張 仁嘯
ZHANG Renxiao

キーワード：都市化、近郊農村、観光開発、地域変容、杭州市

Keywords: urbanization, suburban village, tourism development, regional change, Hangzhou city

1. 研究の背景と目的

農村人口が都市地域に移転することにより、農村地域もしくは自然地域が都市地域に変わる過程を、中国では“城鎮化”と呼ぶ。1978年末を契機に開始された改革開放以来、工業化の加速に伴う城鎮化は急速に進展した。

周（2018）は、市街地の急速な拡大を背景に、その影響が最も及んでいるのは都市近郊農村地域であると述べている。改革開放以来、都市—農村二元構造の改善方法として、近郊農村地域を含む城郷接合部に対する城鎮化と観光開発が重視されてきた。

2021年に公表された《全国郷村産業発展計画（2020-2025年）》には、都市近郊農村レジャー観光こそが総合発展を図る有力な新産業であると示されている。現在、様々な都市近郊農村を対象とする観光開発政策の支持と、観光開発による城鎮化が進められる下で、中国における都市近郊農村の観光開発と近郊農村地域における変容は、さらに急速に進展していくであろう。

したがって、本研究は、中国の城鎮化が進展する中で、都市市街地の拡大と近郊農村地域における観光開発の特徴を把握したうえで、観光開発による近郊農村地域の混住化現象と現地の生活空間の変容について考察し、観光開発が都市市街地の拡大過程の中で担う役割を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の方法

本研究は時間軸に沿って、研究対象地域の観光地化以前と観光地化以降の2つの時期において、鎮政府、観光運営会社、現地住民への聞き取り調査、現地での観察、観光開発過程を記録した現地公示資料の収集を通して、研究目的を達成する。

3. 研究の概要

本研究は5章で構成されている。

第1章では、研究の背景と目的、研究の方法を述べた。

第2章では、杭州市街地の変遷と近郊農村地域の観光開発が始まったきっかけを述べた。

隋唐から民国初期に至るまで、杭州市街地は西湖の東岸にとどまっていた。民国初期から現在までに、杭州市街地は、発祥地域としての西湖東岸を中心とした同心円状に拡大してきた。中国で、市街地を拡大させる手段の一つは土地収用である。しかし、近郊農村住民にとって、土地収用は生活環境に大きな変化をもたらしたため、必ずしも生活水準を上げる手段とは言えなかった。例えば、住民と政府との間に、住民に対する措置などに関する紛争が起り、土地収用の効率が下がるという問題があった。

近年、効率の高い土地収用方法が求められ、観光開発が土地収用の手段として利用されてきた。観光開発の場合、住民の宅地は観光開発範囲に含まれず、現地住民が居住地から離れることを強制

されないため、観光開発は効率の高い土地収用方法として利用されてきた。

第3章では、蘭里の基本状況と観光開発プロセスを述べた。杭州蘭里景区（以下「蘭里」）の観光開発過程は、2016年10月までの未開発期、2016年6月から2018年10月までの観光開発期、2018年10月以降の観光開発完成期の三段階に分けることができる。

2016年までには、杭州市街地の拡大によって、後に蘭里となる繞城村と華聯村は、杭州の郊外から杭州近郊農村地域になった。この時期を未開発期と呼ぶ。

現地住民は下宿業の経営によって多くの経済利益を獲得するため、空き地などの未利用空間を使用し、無秩序で大量の建築物を建造した。その結果、現地では汚水の流出など、一連の環境汚染と生活問題が引き起こされた。

これらの問題を解決するために、2016年6月、三墩鎮人民政府は現地で美麗鄉村建設を開始し、違法建築などの取り締まりと遊歩道、観光スポットの新設を通して、現代農業施設を導入し、美麗鄉村環境改善工程を完成させた。この時期を観光開発期と呼ぶ。

美麗鄉村建設によって小規模な観光産業が現れ、「杭州西湖文化旅游投資集団有限公司」が繞城村と華聯村の観光開発と運営に介入した。その結果、繞城村と華聯村は、「杭州蘭里景区」の名称で、農業観光、研究学習教育などの特色産業を一体化した都市農業研究学習観光地になった。

第4章では、蘭里における現地調査によって明らかになった二つの変化を分析し、観光開発と変容の関係を明らかにした。

まず、混住化現象について、繞城村の下宿業の規模が縮小した。観光開発に際して、違法建築が取り壊され、そこに居住していた外来労働者は転出を余儀なくされた。さらには工業的土地利用もまた縮小した。未開発期では、村内に11社の工場が稼働し、工場の労働者は繞城村の下宿業を利用して、現地に居住するのが一般的であった。観光開発期には工場の収用と廃業が相次ぎ、観光開発完成期になると、稼働する工場は1社となって工場で働く外来人口は減少した。全体として、繞城村の外来人口は減少し、混住化の規模もまた縮

小した。

次に空間の変容について、繞城村では、水域が観光空間として整備され、沿岸には観光施設が建設された。通路もまた同様に、自転車道、遊歩道、水上遊覧航路が新設され、それらを統合した“徐行システム”が導入され、沿線は観光空間へと変化した。しかし、観光開発がなされ、観光空間として整備された空間は、現地住民にとっては生活空間の一部として従来そのまま利用されていることがわかった。すなわち、ここでは観光空間と生活空間が重なり合う様相が明らかになったといえる。

一方、観光農業が導入され、農地は観光空間に変化した。例えば、民家に隣接する農地が開発され、花畑に用途が変更された。その結果として、花畑を散策する観光客が撮影する写真には、花畑とともに民家が写り込むこととなる。このように、現地住民の生活空間は、観光客にとっての観光空間として、ここでも両者が重なり合うのである。

4. 結論

政府と自治体側にとって、観光開発は市街地縁辺部を観光地に変容させ、観光業で経済利益を獲得するだけではなく、中国の城鎮化過程の中で、市街地を拡大させるための有効な手段として活用されていることがわかった。これまで無秩序な開発によって環境問題を抱えてきた近郊農村地域にとって、観光開発は生活環境を改善し、秩序ある整備を促す手段となっていることが明らかになった。■